

柏崎市第5次男女共同参画基本計画（案） パブリック・コメント一覧

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方	計画への反映
1	1-1-2 ジェンダー平等の視点に立った教育の推進（14ページ） 教員や保護者による性別役割分担意識の再生産がなされていはいしないかという懸念があるため、教職員や保護者を対象とした「アンコンシャス・バイアス研修を実施」という事業を増やしてはどうか。学校生活、日常生活におけるステレオタイプを破るための学習機会を提供するものである。	教職員は男女共同参画の視点を養うため、毎年、人権教育、同和教育研修会において研鑽を深めた上で、男女平等意識を育む教育を実践しています。また、保護者には学校だより等で人権教育、同和教育の授業公開を紹介するなど、男女平等に関する情報提供をしています。ご意見いただいたアンコンシャス・バイアスに関する研修については、広く市民を対象にした講演会及び啓発活動を、人権啓発・男女共同参画室が実施してまいります。	無
2	I-3 あらゆる分野での男女共同参画の推進（18ページ） 指標が「コミュニティ推進協議会における女性委員の割合の令和12年度目標値30.0%」となっているが、40.0%に増やしてはどうか。 コミュニティ・センター利用者の多くは女性であり、女性には身近な施設である。30.0%は少なすぎる。コミュニティ推進協議会の会長は男性が多いため、なかなかパーセントが上がらないのではないか。	コミュニティ推進協議会における女性委員の割合の実績値は、令和元（2019）年24.5%、令和6（2024）年25.7%と微増傾向にありますが、まずは着実に30.0%を達成できるよう、コミュニティ推進協議会の関係者を対象にした研修会等を通じて、地域活動における女性参画の重要性について、継続的に周知してまいります。	無
3	III-6 男女の性の尊重と健康支援（24ページ） 指標に「男性特有のがんの検診受診率の割合 前立腺がん検診受診率30.0%」を増やしてはどうか。 女性特有のがんはあって、男性特有のがんがないのはおかしくないか。 それとも検診受診率が非常に高いので意味がないのだろうか。 女性はパートナーが男性であることが多いがパートナーの特有の身体の特徴までは学習できていない。高齢男性がかかりやすいのことから市民向けの学習会を開催することも一案である。	「女性特有のがん（子宮頸がん・乳がん）の検診受診率の割合」は、国の第5次男女共同参画基本計画において成果目標とされており、また、現在検討中の第6次計画においても、女性特有の疾患への支援は優先的に取り上げられていることから、市計画においても指標としたものです。ただし、市民の健康維持と生命を守るため、前立腺がんを含め、全てのがん検診の受診率向上を目指し、今後も周知・啓発に努めてまいります。	無

4	Ⅲ－７－１６ DV を許さない社会づくりの推進（２６ページ） チラシ①が公共施設の女子トイレ等で配布となっているが、男子トイレ（個室）にも置いてはどうか。被害者は女性であるとは決めつけられない。	ご意見のとおり、DV 相談チラシ①を男子トイレにも配布することは効果があると考えます。現在のチラシは女性向けの内容になっていますので、今後、内容を見直し、男子トイレへの配布について検討をさせていただきます。	無
---	---	--	---